

# 平成30年度 栄養ケア・マネジメント課程カリキュラム

臨床栄養活動や在宅療養者への栄養ケア活動において求められる栄養の知識・技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できるエキスパートを育成する課程です。一流の講師陣の講義に加え、グループワーク、直接患者に接する体験や、最新の機器を用いた実習、保健福祉大学大学院との共講、認定看護管理者教育課程ファーストレベルとの共講など、多彩で実践的なカリキュラムを提供しています。

## 【教育目的】

ヒューマンサービスにおける人間栄養学に基づいた栄養の知識・技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントの質の向上に貢献できる人材を育成する。

## 【教育目標】

- 1 ヒューマンサービスの一環としての栄養ケア・マネジメントを担う理念・使命感を備える。
- 2 専門職としてのチームでの役割を理解し、チームメンバーとして連携のとれた業務活動ができる。
- 3 栄養ケア・マネジメントの業務活動上の問題を明確にして、科学的根拠やマネジメント手法などを活用して解決策を提示できる。
- 4 リーダーとなれるマネジメント能力を備える。

## 【教育内容】

(多少変更することがあります)

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内 容	ねらい
基 礎	ヒューマンサービス論 (必修)	15	ヒューマンサービスの理念 保健・医療・福祉の連携 倫理とチーム活動 人間栄養学 人間関係論 多職種協働	管理栄養士として、様々な職種と連携・協働しながら、チームケアを進めていくうえで基本となる考え方や、人間関係の構築について学ぶ。
	栄養ケア・マネジメント論 (必修)	30	栄養ケア・マネジメントと情報管理 科学的根拠に基づいた栄養ケア・マネジメント 栄養ケア・マネジメントの運営 在宅栄養ケア・マネジメントの運営 給食経営管理 経営の基礎 人材教育と自己研鑽・生涯学習 栄養政策と栄養士活動	栄養ケア・マネジメントの概念、計画、評価、品質改善活動など、栄養ケア・マネジメントの運営のための基礎と実務について、制度、管理、情報などから多面的に学習する。
	設定時間数 小計		45 (必修 45)	

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内 容	ねらい
専 門	臨床栄養実践活動論 (必修)	30	栄養アセスメント・栄養ケア計画 経腸・静脈栄養法 摂食・嚥下機能と経口移行・維持 特定保健用食品・保健機能食品・病 者用食品 事例検討	臨床での栄養管理に必須となる栄養アセスメント、経腸・静脈栄養や摂食・嚥下機能や機能性食品等の適切な選択についての理解を深め、事例検討を交えて学習する。
	栄養教育と地域活動 (必修)	30	栄養教育 退院計画・指導 集団の栄養評価と計画 地域栄養活動	生活習慣病、低栄養状態の重症化予防・治療のための栄養教育、地域栄養活動の基本と業務の進め方を、具体的な集団の評価や地域連携など、地域活動の実践に結び付けられるよう理解を深める学習をする。
	事例検討 (必修)	15	事例検討の方法 ヒューマンサービスの質を高める事例検討	栄養ケア・マネジメントの基礎的事項を学んだうえで、具体的な事例発表を通じて、発表方法や技術について理解を深め、現場での対応力の向上を図る。
	栄養ケア・マネジメント (NCM) の展開 1 (品質改善活動) (必修)	60	情報の活用 文献検索 栄養評価 NCMの問題抽出と目標設定 NCMの実行計画 評価 発表会	自施設における業務上の問題を抽出し、改善目標を設定して、PDCAサイクルに基づく継続的品質改善活動を展開できるよう実習を通して学習する。
	栄養ケア・マネジメント (NCM) の展開 2 (居宅サービス活動) (選択)	60	介護予防のための栄養改善 実践病態栄養学 通所サービスの実際 訪問活動の基本と NCM 居宅サービスの栄養管理の実際 居宅訪問実習 発表会	居宅での栄養ケア・マネジメントを自ら行えるよう、対人サービスの基本を学んだうえで、実際に居宅サービス活動を行っている講師の講義に加え、演習や実習を通して学習する。
	クリニカルニュートリション (選択)	15	臨床栄養におけるフィジカルアセスメント 臨床栄養に必要な薬理学の知識 臨床栄養における周期術の知識 臨床栄養と研究手法	全身管理における栄養管理の位置づけを理解し、臨床現場において、他職種と協働した効果的なNST活動や全人格的な栄養管理を行う知識・手法を身につける。
	設定時間数 小計		210	(必修 135 / 選択 75)
設定時間数 合計		255	(必修 180 / 選択 75)	